



熱心であること

チャンスをつかめと言っても、ふつうの程度の努力をしていただけでは、チャンスを手ヤンスとして見きわめられない。やはり熱心であること。熱心な上に熱心であること。その熱心さがチャンスを見きわめる眼を養っていくのである。

アイデアを生むと言っても、口先だけでは生まれない。これもやはり熱心であること。寝てもさめても一事に没頭するほどの熱心さから、思いもかけぬよき知恵が授かる。アイデアは、人間の熱意、熱心に対する神の報酬である。

どんなに賢く生まれついたと言っても、熱心さがなかったら、その賢さが賢いこと、自他とも恵みにはならない。賢いと言いつても、人間におけるそのちがいは、神の眼から見ればタカが知れている。

それよりも熱心であること。何事にも熱心であること。誰よりも熱心であること。熱心から生まれる賢さが、自他とも真の幸せを生むのである。

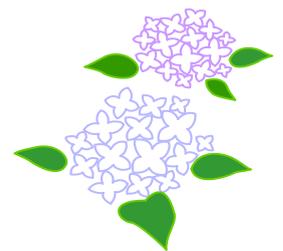
熱心は、人間に与えられた大事な宝である。そして、この宝は誰にでも与えられているのである。

【松下幸之助：「続・道をひらく」より】

みなさんには、熱心に取り組んでいることがありますか？

NHK 連続テレビ小説「らんまん」を知っていますか？主人公牧野富太郎さんの笑顔で明るく天真爛漫に突き進んでいくさまをイメージしているドラマです。牧野富太郎さんは、9歳で『本草綱目（ほんそうこうもく）草について書かれている百科事典のような書物』に出会います。それから日本中の植物についてまとめあげる夢を抱き、独学で植物の勉強を続けます。同じように植物学を志している多くの仲間と出会い50万点以上の標本や観察記録を残し、数多くの植物図鑑や書物を発行しています。牧野富太郎さんの熱心さは、そこでは終わりません。発行された図鑑に、どんどん加筆（内容を書き加えること）や修正を重ねていたようです。「雑草という名の草はない」と言い、96歳で亡くなるまでその意欲は衰えることなく、植物の観察を続けていたと言われています。まさに「熱心であること」の代表です。

みなさんには、これから多くのチャンスがやってきます。「熱心であること」を意識してチャンスをつかんでいってください。牧野富太郎さんにも負けられません。



通級指導教室のお知らせ

今年度より、詫間中学校に通級指導教室が新設されました。通級による指導は、通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある生徒が対象です。ほとんどの学習は通常の学級で受けながら、一部、一人一人の教育的ニーズに応じた指導を、通級指導教室で受けるというものです。

本日、「香川県の通級による指導」の保護者向けガイドのリーフレットを配布しています。通級による指導を希望される方は、学校にご連絡ください。